

■After 建築名称 下段: 英語名	名古屋大学豊田講堂 改修 Toyoda Memorial Hall		
建築用途	大分類 教育施設、集会施設 小分類 講堂		
改修設計者	榎総合計画事務所 URL		
所在地	愛知県名古屋市千種区不老町 Google Map		
改修年	2007年	After 外観	
建築規模	構造/規模: RC造一部鉄骨造/地上3階 地下1階 延床面積: 8,643.36㎡		撮影者提供者 撮影: アーキフォト 北嶋俊治 提供: 榎総合計画事務所
掲載書誌	新建築 2008年7月号		概要 after 外観デザインの保存継承。ホールの機能性と快適性の改善。隣接する施設と連結し複合施設化
賞・選定	登録有形文化財(2011)、BELCA賞(2011)、公共建築賞 - 特別賞(2012)、日本芸術院賞・恩賜賞(2013)		
資料・その他	URL		
■Before 建築名称	名古屋大学豊田講堂		概要 before 1960年に建設された名古屋大学のシンボルである講堂。榎文彦氏の日本での最初の作品。
建築用途	大分類 教育施設、集会施設 小分類 講堂		
■写真 Before 竣工時の航空写真	After 講堂内観		After アトリウム夜景
			
撮影者提供者 提供: 榎総合計画事務所	撮影者提供者 撮影: アーキフォト 北嶋俊治 提供: 榎総合計画事務所	撮影者提供者 撮影: アーキフォト 北嶋俊治 提供: 榎総合計画事務所	
■リノベーション内容	キーワード 外観保存、適合化、室内改変	内容 <ul style="list-style-type: none"> ・外観デザインの保存継承 ・耐震診断の結果、主体構造に補強の必要はなく、打ち放しコンクリート仕上げが劣化しているため、表層を表層を30mm削り、メッシュ筋をセットした杉板本実型枠にコンクリートを55mm打設して竣工時の杉板本実打ち放しの質感を還元している。 ・ホールの機能性と快適性の改善 ・空調改善、音響改善、舞台を拡張し席数を減らして客席にゆとりを持たせメモ台やLAN端子を装備した他、木仕上げに統一した内装によって国際会議からコンサートまで幅広い利用を可能としている。 ・隣接する施設と連結し複合施設化 ・講堂と隣接する学术交流施設(シンポジオン)との間にアトリウムを増設することで生まれた空間は、透明性の高い内なる広場として学生や市民の新しいニーズに応える交流の場となり、多様なプログラムに対応できる開かれた複合施設化が図られている。 	
■備考			
■作成者氏名/所属	桐原武志 / Free JIA再生部会		作成協力者 榎総合計画事務所